

平成28年度青少年育成関係団体懇談会 開催結果

当協会では、毎年、青少年育成関係団体が一堂に会し、相互の団体活動の連携協力や青少年の健全育成運動の効果的な促進について 意見交換をする懇談会を開催しており、今回は10団体、4機関が出席しました。

懇談会では、参加団体の平成28年度の活動状況について情報交換を行ったほか、話題提供として、北海道子ども会育成連合会常務理事・事務局長の木村氏から「道内における子ども会の現状と課題」についての説明がありました。

木村氏からは、道内の子ども会の取り組みとして、道子ども会育成連合会や各市町村子連、単位子ども会が実施している事業の紹介、さらに、子ども会加入状況や今後の課題等についてお話しされました。



はじめに、道子ども会育成連合会での主な事業（5つ）として、① 育成者・指導者相互の連携提携や情報交換に資する研究会の開催、② 指導者育成のための研究会等の開催、③ 青少年教育関連団体との連絡協調、④ 子ども会活動業績顕著な団体・個人の顕彰、⑤ 安全共済事業などを実施していると紹介があり、特に近年では、研修会の講習内容として、KYT講習（危険予知トレーニング）や、地区別の安全対策研修会においても、育成指導者の安全管理の知識・技術の向上を目指す研修会を開催していると説明がありました。

次に、各市町村子連の活動では、地域の特性や人的資源を利用するなど工夫をし、独自の活動を展開しており、主に季節毎の行事やリーダー養成の事業が多いと話され、さらに複数の市町村での事業紹介が挙げられ、どこの事業も子どもが中心となり準備から当日の運営まで実施しており、自主性や社会性が育まれていると話されました。

その後、身近な地域の子ども会である、単位子ども会の説明に移り、主に町内会等で分けされた集団であり、子どものために子どもが計画し、子どもが実施することを目的としている。事業については、四季折々の行事やイベントがあるのだが、今はすべてやっている単位子ども会は少なく、行事の実施も大人が準備・運営をし、それに子どもが参加している状況にあると話されました。



続いて、現在の子ども会の加入状況として、加入会員は138市町村（札幌市を除く）であり、単位子ども会数は把握していないが、次年度、道子ども会育成連合会の創立50周年にあわせて調査する予定であると話されました。また、単位子ども会数を把握していない要因としては、各市町村子連が把握していなく、地域に子ども会はあるが市町村子連に加盟していないなどの要因を挙げられました。

また、加入人数（大人も含める）としては、ピーク時の昭和60年には約27万人が加入していたが、平成27年では約8万人まで減少しており、少子化の影響もあるが、比率的にも減少していると述べられました。

最後に、今後の課題としては、人口の減少と少子化、後継者不足や高齢化、さらに急速な社会変化に伴い、子ども会としてもうまく対応しないといけないと感じている。また、親への社会教育も必要であると考え、親が子どもへ過関心すぎる、もしくは無関心であることから、地域行事に参加させなくなっている。実際に見た光景だが、とあるキャンプ場で、家族全員揃っているのだが、各々、父親はお酒を飲み、母親はスマホを見て、子ども達はDS(ゲーム)をしており、これでは家庭をただ外に出しただけではないかと感じ、それであれば、1泊2日の子ども会行事に参加させ、子どもに色々なことを体験させてあげてほしいと思うと話されました。

これから先の未来を担う子ども達なので、自分の住む地域の異年齢の方々と遊びや体験などを通じて自主と連帯性を養い、たくましく思いやりのある、あたたかな子に私達は共同して積極的に育てていかなければならない、と述べられました。

懇話会の最後では、関係機関からの情報提供があり、道からは「ケータイ安全利用普及技術養成講座」開催の案内や、道警からは「自画撮り被害」に遭わないための啓発活動等について説明がありました。

【出席者】

北海道小学校長会／北海道高等学校長協会／北海道 PTA 連合会／札幌市学校教護協会／北海道少年補導員連絡協議会
／一般社団法人ガールスカウト北海道連盟／北海道青少年育成アドバイザー連絡協議会／公益財団法人YMCA／一般社団法人北海道子ども会育成連合会／公益財団法人北海道民生委員児童委員連盟／北海道環境生活部くらし安全局道民生活課青少年 G／北海道警察本部生活安全部少年課／北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課／北海道教育庁学校教育局参事(生徒指導・学校安全)